

杉山小学校のESD活動

<活動の概要>

- ・環境への意識を高め、地域の「もの・ひと・こと」に関わる活動を通して、地域が好きになり、「杉山」と関わる子を育む。
- ・具体的には、地域と学校が協力して開催する行事や総合的な学習の時間・生活科の時間を柱に、①地域の環境や伝統文化、文化遺産に関わる活動、②地域社会に関わる学習、③防災に関わる学習を行った。

・活動の実際

① 地域の環境や伝統文化、文化遺産に関わる活動 (全校児童)

当校では、「杉山グリーンウォーク」という地域と学校が協力して開催する行事がある。4コースに分かれており、事前に決めたコースを、家族でさまざまなポイントをめぐりながら歩き、校区のよさを再発見する。汐川干潟や豊橋名木100選のホルトノキ、寺や神社、農園や牧場など、たくさんのポイントがあり、緑豊かな校区の歴史・文化・自然を感じ取りながら、活動している。ごみ拾い(530)活動も同時に行い、地域の環境に目を向ける活動にもなっている。校区の多くの方々が、家族や家族の枠をこえたふれあいをすると共に、ボランティアとして建物や史跡の説明をしたり、ごみの分別を行ったりする取り組みが継続して行われている。



杉山グリーンウォーク

② 地域社会に関わる学習(2・3・4年生)

低学年は「地域のよさを理解していく時期」と考え、地域の方々の協力を得た活動を多く取り入れている。2・3年生では、地域の農業ボランティアの方に協力していただき、毎年、サツマイモ・スイカ・冬野菜等の栽培、収穫を行っている。2年「野菜の苗植え」



3・4年「西南台公園ごみ拾い」

4年生は、地域の環境学習に取り組んでいる。自分たちでできることはないか考え、校区にある公園のごみ拾いを3年生に呼びかけ、二学年合同で行った。また、「杉山地域保全隊」と協力し、環境を守るための看板を作製し、校区の環境について知り、守っていかうとする活動を行っている。

③ 防災に関わる学習(6年生)

子どもたち一人一人が気になった校区の危ない場所を情報共有し、防災マップを作成したり、天津防災センターを見学したりして学習を進めた。万が一の大災害に備え、災害発生時の適切な行動を考えたり、避難生活の向上のための備えを見直したりするなど、予測される災害対策への意識を高めた。秋に行われた学習発表会では、「自助」「公助」「共助」について発表し、特に、他者に頼らない「自助」の大切さを参観者に訴えた。



6年「天津防災センター見学」